

# 世界一の「明石海峡大橋」を 誇りとロマンで架けるエンジニアたち

完成すると「世界一」といわれる明石海峡大橋。この夢の架け橋を一步一步実現に近づけているのは、建設にたずさわる人々の汗と誇りとロマンです。今日は5人の若いエンジニアたちにご出席いただき、現場のナマ情報から将来の夢までを生き生きと語っていただきました。

- ご出席者
- 大 廣 始さん 公団計画担当
  - 北 口 雅章さん 公団工事担当
  - 日 野 雅博さん 建設会社現場担当
  - 湯 室 和夫さん 建設会社現場担当
  - 藤 村 浩幸さん 建設会社現場担当
  - 佐々木 徳子さん インタビュー

## デッキ世界に夢を託した少年たち

——まず最初に、皆さんがなぜ建設業を職業として選んだのか、その動機についてお聞かせいただけますか。  
湯室 私は、大学入試で恥ずかしながら浪しました。その時に、社会に出て自分はいったい何をしたいのかをジツクリ考えなおしました。建設業には、小さい頃、自宅の近くで高速道路の工事を見て以来憧れていました。男として大きなことをしたいと思いましたので、大学は土木工学科を受けることに決めました。そして、この世界に入ったんです。  
日野 私は高校の頃は建築方面に憧れていたのですが、大学を決めるとき、土木関係の仕

事をしていて父に「土木の方が建築より食いつばぐれがない」と言われ、その言葉を鵜呑みにして進路を決めたというわけです。  
大廣 私の場合、大学受験で科を決めるのに消去法でいきました。建築は絵がヘタ、センスがない、電気・機械は部屋の中でやる仕事でもう一つ興味が湧かない。その点では土木は橋とか河とか範囲が広いし、大きなものをつくる点でも魅力的でした。その頃はちょうど列島改造論が華やかなきときもあり、土木へ行けば就職も大丈夫だと——(笑)。  
北口 私は小さい頃から海洋開発に憧れていて、それをやるなら工学科だということで学部を選びました。今、海洋開発の最前線で働けるのはほんとにラッキーだと思います。

藤村 父の仕事が建築関係で、私も高校から建築科に行きました。大学では都市計画で小さな宅地の研究をしたりしましたが、もっと広い所での研究がしたい、それには海しかない、ということで現在の会社に入りました。建築とは関係ない世界ですが、私なりに楽しんでやっています。

自分たちで掘ったという誇りみたいなものがあります。これだけやればこれだけのものができるんだ、これをやるのが自分たちなんだ、と。その誇りがあるからこそ仕事ができるんですね。それと、仕事を通して知ったことは、大自然の恐ろしさということです。下関で仕事をしていたとき、新潟沖地震が起きたというニュースを聞いてから5、6時間たった頃、海面が50cmほど垂直にポツと上がったんです。びっくりしました。海は生きものと同じです。漁師さんが「海は紙めてかかるな」とよく言いますが、いつも気を張りつめていないと、ほんと恐いですね。  
北口 私も、自然を相手の仕事で、我慢強くなることを覚えました。  
仕事の面では、非常に恵まれた環境にいると思います。



明石海峡大橋完成予想図



ケーソン設置

## 自然が相手だから 誇りとやりがいも大きい

——人間関係では皆さんうまくいっているようですが、仕事そのものについてのご感想はいかがでしょう。たとえば仕事に対するやりがいとか、仕事の悩みとか——。  
藤村 仕事の悩みは時間が不規則なこと。今朝も3時からずっと起きています。仕事のやりがいとしては、ケーソン沈設前に海底掘削をしますが、目には見えないものですけど

ケーソン曳航





大廣 始さん 北口 雅章さん 日野 雅博さん 湯室 和夫さん 藤村 浩幸さん



●インタビューを終えて

忙しい仕事の合間に来ていただいたにも関わらず、初めての経験で準備は私のインタビューに際して事前に済ませていただき、とても感謝しました。言葉は通じても同じ夢、世界最大の明石海峡大橋に向けて一丸となって取り組む、ひとむきも笑顔と熱意がすごく感じられ、私も思いました。同じ建設業で働いて私も、その仲間として誇っていただき、ちょっとの誇りを感じました。これからも健康に元気を付けて頑張ってください。

インタビュー/佐々木徳子

大廣 私の聞いた話では、明石海峡に橋を架ける計画はずいぶん昔から既にあつたということ。それがやっと現実の姿になった訳ですね。

それと、土木技術の進歩は、たとえばコンピュータの進歩と比べてかなりゆっくりしているということ。この大橋にしても何十年も前から調査・研究が始まり、多くの人の努力の結果いまやっとあそこまで到達したわけです。技術力というのは時間がかかるということをもっとよく感じます。

日野 私は、第一線の現場に出ていますので、自分の一言一言が現場の状況を左右するということがあり、そんなときやりがいを感じます。逆に、これだけ大きな仕事ではいくらでも補充がきくわけで、私が突然いなくなっても仕事は進む、そこが残念というか仕方がないというか……

湯室 私の場合は事務所の中で、現場の人たちがムラ・ムダ・ムリなく安全に働けるように計画を立てています。ヘンな計画を立てればたいへんな人数の方に迷惑をかけることになりません。とにかく慎重でなければなりません。それと、現場がデカイものなので課がいくつもあり、情報の流れがとどろくと隣が何をやっているのかを見失うことがあります。十分周りを見回さないといけないなと痛感しています。

「汚い、きつい」は返上します！

建設業界は昔から危険だとかきついとか汚いと言われていますが、この辺はどうお感じになっていますか。それと安全について一番大事だと思われる点はどんなことでしょうか。

仕事を理解してくれろ 女性って最高だなあ

話は変わりますが、好きなタイプの女性像とか結婚観、また理想の家庭像みたいなものについてお伺いしたいのですが。藤村 私は3月末に結婚したばかりで、すぐ単身赴任をしました。今の奥さんが最高だとは思いませんが(笑)、社内結婚ですので、私の仕事の中心をよく知ってくれています。4年くらい付き合ってみて、単身赴任しても逃げられる心配はないなと思ったので結婚しました。やはり自分を理解してくれる人が一番いいですね。

北口 私も結婚しています。この仕事は朝が早く夜も遅い、だから留守をまかせられる女性がいいと、いまになって思うんですが(笑)。大廣 私は結婚して7年くらいになるので、いまさら理想像と言われても……(笑)。やっぱりいっしょにいて退屈しない女性、仕事も家庭も全体的に理解してもらえ女性がいいと思いますね。

日野 そろそろ結婚しなければとは思いますが、相手がいらないので見つからずから考えようかと……この業界は結婚が遅い方も多いので、まだ安心してらるんですけど。湯室 私も1、2年前まではそうでしたが、最近若干あせってきました。やはり、仕事も含めて私たちのことを理解してくれる女性、いっしょにいても気疲れしない、おもしろい女性がいいですね。

藤村 安全管理とは、自分がこれをしたら危ないという判断と自覚だと思います。危険を感じたら、すぐそれを危険でないようにするのが私たちの仕事です。ですから、危険な状況をできるだけ少なくするという前向きな方向で常に考えています。たしかにカッコわるい。でも、現場をカッコよくきれいにしていければ、土木なんかヤリガイがなくなるんじゃないですか(笑)。

大廣 建設業界がきつい、汚い、危険な業界だと言われていることは聞いていますが、私自身はそれほど感じていません。危険は少しありますけど、でも事故の多くは、それなりに対処すれば防げるものだと思います。汗を流して大きな架設を終えたあと、汚れた作業服のままビールを飲む、そういうときに、やっつけてよかった、と心から思いますね。

北口 安全とは、各作業員がムリをせず自覚をもってやることに尽きます。日野 汚いと給料が安いとか、最近あまり感じなくなりましたが、この業界に入った当時はずいぶんギャップを感じました。ある程度は知っていたつもりだったので、それ以上に現実が厳しかった。ほかの人がどうかはわかりませんが、やはり改善はしていかないといけないという気がします。それがないと人が集まりませんからね。

湯室 私も、世の中全体がきれいなイメージになってきているときに、土木だけがこのままというのはいかがだと思います。先輩の話ですが、数年前他の業界が週休2日を要求しているときに、建設業だけが日曜日休ませろ、というプラカードを立てていたと聞きました。工事の金銭的な面なのか工程的なものなのかわかりませんが、これからは土木のイメージアップということも、もう少し考えてほしいと思います。

デッキ世界だから夢もデッキノ

では最後に、将来ぜひやってみたいと思われる仕事の夢をお聞きしたいのですが。藤村 私は海洋レンジャー施設をやってみたくて、人工島とか、土地のない所に土地を造ってそこに都市計画を考えていく、そんな方面をやってみたいですね。北口 明石海峡大橋を超える橋ができるときは、ぜひ参加したいです。大廣 私は、橋の仕事をスタートから1回やってみたくて、いままではアウトラインが決ま



っているなかで設計したり造ったりしたことはあるんですけど。

日野 自分の納得いくものを1回造ってみたいですね。この5年間で最初は羽田空港、次にこの明石と大きなプロジェクトに参加してきましたが、今度は自分の実力をためせる小さいものを、善かれ悪かれ、自分の納得のいく形で取り組んでみたいと思います。

湯室 明石海峡大橋というのは、本州四国連絡公団さんにおいてもいわば集大成のようなものであり、完成された技術があると思うんです。10月から特殊水中コンクリートを打つというところで、私もこの現場でずいぶん勉強させてもらっています。この経験を活かせるような現場に今度は行きたいと思えます。私は欲張りなものですから、橋以外にもダムとかトンネルとか造成とか、いろんなところを回りたいですね。

どうぞ、いつまでもロマンと誇りを持ち続けて、ぜひ皆さんの夢を実現させてください。今日はお忙しいところを、ほんとうにありがとうございました。